

## 令和3年度 第2回舞鶴市図書館協議会 記録(抄録)

日時：令和3年7月28日(水)

午後1時30分～3時30分

会場：舞鶴市役所大会議室

### <議事>

(1) 開会

(2) 議事

議題① 舞鶴市立図書館基本計画の策定計画について

議題② 令和2年度事業実績について(報告)

議題③ 令和3年度事業進捗状況について

(3) 閉会

### <会議録>

(1) 開会 (13時30分)

挨拶

(2) 議事

議題① 舞鶴市立図書館基本計画の策定計画について

\*質問、意見はなし

議題② 令和2年度事業実績について(報告)

\*質問、意見は以下のとおり

### ★委員

・雑誌スポンサーは年間契約か。

### ☆事務局

・令和2年度の途中から始めているので開始月はそれぞれ個別に異なるが、今説明したのは1年間の契約で負担いただく額である。

議題③ 令和3年度事業進捗状況について

\*質問、意見は以下のとおり

★委員

- ・講師派遣のところに放課後児童クラブとあるが、具体的にどんなことをするのか。

☆事務局

- ・夏休みにブックトークをしてほしいとの依頼だったが、ブックトークは学校に対して実施しているので、今回は絵本の読み聞かせなどをする予定である。時間は1時間弱程度の予定である。

★会長

- ・ブックトークはどんな形で行っているのか。

☆事務局

- ・小学校を訪問し、学校の規模により全学年、または3学年(2・4・6年など)対象に実施している。

★会長

- ・事業名の内容がわかるように、説明を書いておいてほしい。ブックトーク、赤ちゃんおはなし会、おはなしの部屋などの違いや対象となる人たちがどのような形できっちり押さえられているのかを把握したい。

★委員

- ・課題解決型図書館を目指していくというイメージが、具体的にわからない。個人情報もあると思うが、平成3年度はどんな内容で何件あって、それが解決に向かっていったという事例があったら教えてほしい。

★会長

- ・今言われた課題解決型というのは、レファレンスカウンターに行き、具体的に実は私こんなことに悩んでいると言って、それに対してこんな本がありますと案内しますということか。非常にパーソナルな話である。豊中の図書館にはホスピスの専門の書架がある。専門の書架があるのも課題解決になる。パーソナルじゃなくても、自分で探しに行って自分でこれだとみつけるのも課題解決型になる。パーソナルなことだけではなく、一般的な課題解決の誘導の仕方はどうなのか。

☆事務局

- ・レファレンスの件数でいくと、西図書館だけで毎月100件ほどあるが、ほとんどは簡単な、こんな本はあるか、こんなことを知りたいがどこに本があるかというような質問が多い。また、前に読んだことのある本を探してほしいというような質問も増えている。
- ・サービス基本方針に書かれているような取り組みがあるが、現状としてはまず市民の皆さんに、図書館が課題解決に取り組んでおり、聞いていただいたら皆さんの悩み事や問題を解決する糸口が見つかるかもしれないといったことをまずは知っていただくことに力を入れている。これまで公民館や市役所でやっていた講演会などを図書館でやってもらう、例えば昨年認知症サポーター講

座を実施したが、認知症の家族をかかえておられる方が図書館に来られ、認知症関連の本を並べて借りて帰っていただくといったことで、図書館の利便性を知っていただく。展示にしても、見やすいターゲットを絞った展示をしたり、まずは図書館に注目していただく、それを最初のステップとしている。本当の意味での課題解決図書館になるためにはまだまだ先があるが、現状としてはそんな取り組みをしている。

- ・補正予算がついたので、健康情報関係の資料をたくさん入れて並べた。例えばレファレンスだと「がんについて調べたい」という相談があれば、プライバシーにも配慮しながらこんな本があると導きながら案内していくが、テーマ展示で資料を並べておくと、セルフレファレンスといって、尋ねなくても、自分から手に取っていくというのも一つのレファレンスになる。司書が相談にのって、資料を通じて解決していくというのもレファレンスで、普段の業務の中でやっている。

- ・レファレンスの中で個人情報漏れることはない。

### ★委員

- ・友達にレファレンスのことをすすめると「そんなことは自分で調べる」と言われた。アンケートでも課題解決型図書館は望まないという意見もあった。もっと具体的にこんな相談があり、こんなふうに解決したというような例を知る機会があれば、自分も行ってみようと思えるのではないかな。

### ★会長

- ・そんな課題解決なんて図書館に行かなくてもできると思っている市民感覚にはちゃんと応えていかなくてはならない。

- ・舞鶴の商店街の人たちは商売をされていて苦労されていると思う。商売をするうえで国からの助成金や京都府の支援制度などいっぱいあるが、こういうふうになれば使えるという案内をしてくれるようなコーナーを作ってはどうか。また、ネット上での誹謗中傷が社会問題になっているが、これに対してどう太刀打ちをしていくか、わかりやすい弁護士の頼み方など、そんなコーナーがあってもいいのではないかな。それが課題解決型の図書館であり、生活を防衛するための図書館ではないかな。

### ★委員

- ・先ほどのレファレンスに関して、司書に相談して目当ての本を紹介してもらおうというのも一つと思うし、図書館で本と人をつなぐだけではなく、専門家の人を紹介してもらったり、人をつなげて知識をつなげていくようなことも含めての課題解決型図書館ということかと思う。今からレファレンスのやり方がいろいろ出てくるのではないかな。

### ☆事務局

- ・商工会議所などと強いパイプを持って窓口になればということで、そちら向けにビジネス関連資料の案内をしたり、そういうイベントなどのときに出かけて行ったり、また図書館でコラボしてできればいいなということで、積極的に今年度からぜひ関わっていき

いと思っている。

・ビジネス支援研修を受けて、品物のレイアウトの仕方や並べ方を教えてほしいということなど、本当に身近なことに対応したり、個人商店の方などが声をかけて話しやすい環境を作ったり、小さなテーマ展示などピンポイントにアプローチすることを学んだので、今年度はそういうことも積極的にやっていこうと思っている。

#### ★委員

・職員研修のビジネス支援研修とは何か。

#### ☆事務局

・ビジネス支援図書館協会という常世田副会長が理事長を務めておられる協会の研修で、2月に岡山司書が受講した。ビジネス支援型の最先端の図書館の職員と一緒に勉強した。講師陣もそういったところの館長などで、具体的にどういことをすると課題解決に有効だということや事例などを教えてもらった。それを実際図書館に還元していきたい。今年度も受講を予定している。

#### ★会長

・今後は基本計画を作っていくことが中心となる。これについて事務局から何かあるか。

#### ☆事務局

・資料1で報告したとおり、今回は11月に会議を開催し、基本計画策定に向けてスケジュールを詰めていきたい。年度内は3回程度、令和4年度になってから2回または3回程度、合計5、6回この図書館協議会を開催して、そこで原案を説明し、意見を出してもらい、修正、パブリックコメントを経て策定していきたい。諮問答申という形にするかどうかはこれから検討したい。

#### 【その他意見】

#### ★委員

・図書館が変わっていくことは、みんなが期待をもって楽しみだなど思ってくれるようになっていけばいい。図書館がやっていることをもっとアピールしたらいいと思う。広報誌の中にも決まったページにおすすめの本が載っている、図書館でこんなことをしている、課題解決についても、こんなふうに利用できるなど掲載できるとよい。SNSで公民館が活動報告をしているのを見かけるので、図書館でもこんなことをしていると発信できるものがあればいいと思う。個人のインスタグラムで図書館の風景などを載せている人がいるように、図書館でも独自に情報発信ができればいいと思う。

#### ★会長

・アクティブな前に出ていく図書館をこれからやりましょう。今まで謙虚すぎた。もっと

社会化して、ここにあるぞとPRしていったらいい。そういう基本計画を作りましょう。

★委員

・課題解決型図書館は難しいイメージがあり、相談する利用者があるだろうと思うが、図書館も努力しようとしているのだと思うし、そういうふうになってほしい。コロナの交付金で購入した図書を、市民にもっと宣伝してはどうか。また、先ほどの意見にあったように、図書館周辺の季節の景色などもホームページに載せられたら行ってみようと思うのではないか。

★委員

・今後の舞鶴市の図書館がどうあるべきかを話し合う中で、機能する図書館というか、一部の人たちだけにありがたい図書館でなく、多くの方にありがたがられる図書館を目指していることは、一気に進んだように感じている。広報誌にも今までなかったような写真を入れた図書館特集が載っていて、すでに改革が始まっていることがすごく伝わってきてうれしい。目指すところは最終的に課題解決型図書館であるが、図書館自体がまだまだ敷居が高い、自分が行くべきところではないと思っている人がいる。ある都市の図書館ではいろんな人がリラックスルームのようなところにおられた。行ってみないと次につながらないので、これから具体的にハード面や人のことなどが出てくると思うが、そこへ行ったら幸せになりそうな、居場所という図書館の機能も忘れないでほしい。行ったらこんな本に出会って自分が変わったとか、居場所のない子どもたちが行って生き方が変わったとか、そこにつなげるような、行こうと思う場所づくりができていくといいと思う。

★委員

・アンケートにもあったが、課題解決型を望まない市民もまだまだ多い。進めていく図書館の側と市民にまだまだ壁があるように感じる。基本方針の表現も丁寧に説明した方がよい。市民がステップアップしていけるようにバージョンアップしていけたらと思う。

★委員

・公民館との連携も必要ではないか。多くの講座が公民館で行われていて、高専の先生が講師となって発明クラブなどをやっているが、近くに住む子どもたちの参加になりがちだ。図書館と公民館が連携することによって、広くカバーできるようになると良い。

★委員

・ボランティア活動に必要な本を借りるため図書館デビューをした。借りたら返さなくてはならないので、行くとまた読みたい本が出てくる。新しいことを始めるとき、図書館に行くと本をいろいろ見てみるのがいいと思った。図書館を活用してほしいと思った。来館者、借りない人の数字も知りたい。来館者数も大事ではないか。また、貸出につなげるためのPR、例えば新聞を活用して紹介していくことが大事だと思う。子どもにとって楽し

みな場、のぞいてみたいと思える図書館であってほしい。自然・環境が変わってきている中で、図書館の果たす役割についても考えたい。

#### ★副会長

・どこの図書館も、コロナで利用者が減っている。実数とともに、コロナがなかったらと仮定した数字も出した方がよい。分母を開館日数にして、閉館した時期の利用のパーセントを出した方がよい。その修正をすると、2020年度はそんなに落ちていないのではないか。

日本における図書館のイメージが先進国と大きく違う。アメリカでは自己実現ができるようにサポートするところという認識である。日本は、本、小説を貸すところというイメージで、ビジネスマンが統計書を読むなどというイメージがない。社会教育法でも図書館法でも、図書館は本を貸すだけのところとは書いていない。スティーブ・ジョブズは「消費者はスマホを持っているが、アップルがスマホを提示するまでは、スマホを欲しいとは言わなかった。」と言っている。図書館も同じである。潜在的なニーズは行政が提示しないとけない。ポイントは大人のための図書館。子どものためではなく、子どもを育てる大人を助ける。大人が来なければ利用は増えない。サービスの基本方針に書かれていることは、日本中の図書館のスタンダードだということを、市民に伝えていかなければならない。

#### ★会長

・みんなに親しまれる図書館は当たり前のことである。プラス役に立つ図書館、困っている人に迫っていく図書館。二つ同時に追求すべきものと思う。必要課題やニーズの発掘も重要で、マーケティング、ニーズを把握するのが司書の仕事である。公民館との連携、学校との連携も大事。社会教育と学校の良い関係を築き、自助、公助、共助のための情報も揃えなければならない。

#### ☆部長閉会挨拶

(3) 閉会 (15時30分)